

作品番号017-1



海と暮らす家

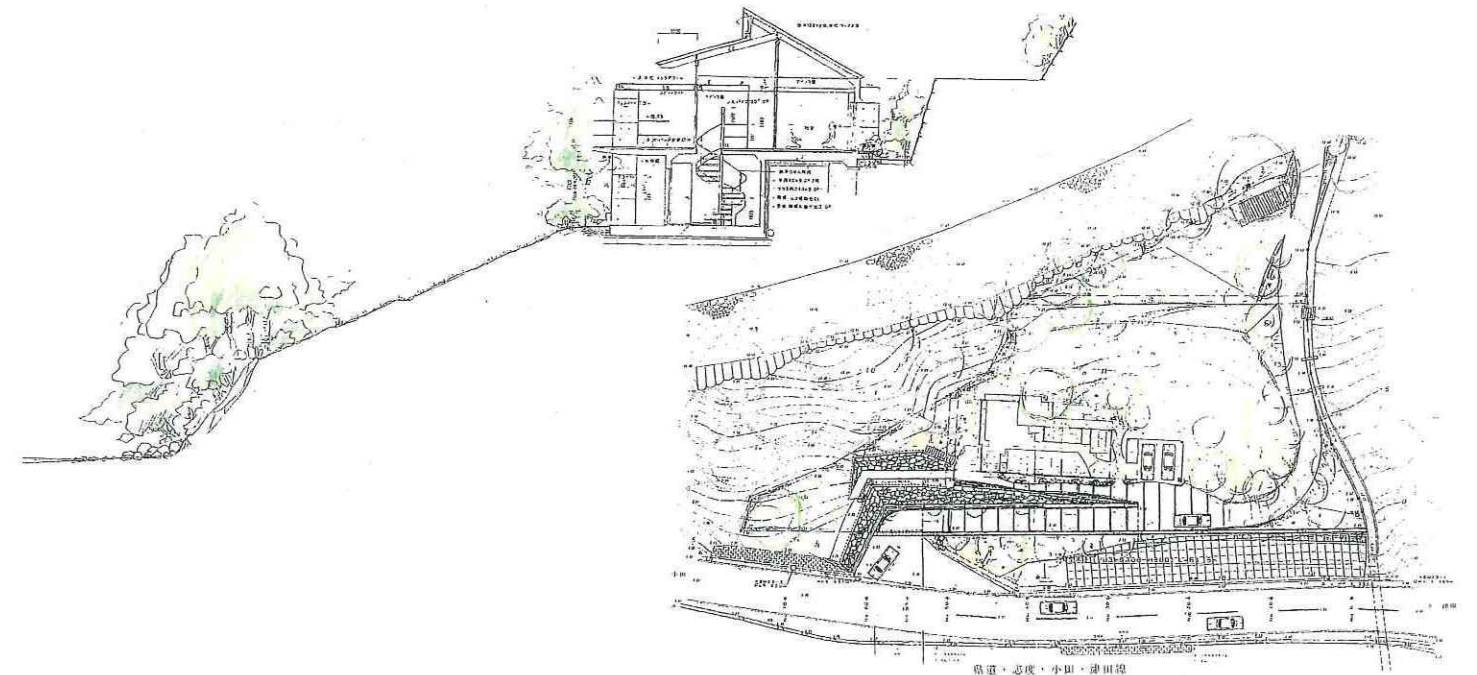
(人が集まる暖かい家)をコンセプトに、瀬戸内海の風景に埋設した家。

敷地は、静かな自然の中、北に山、南に海が押し寄せる環境の中、すぐ近くに、幹線道路が走っていると言う、利便性と、素晴らしい展望に囲まれ、空気の澄んだ日には、淡路島まで、見渡せる。海といしょに暮らせたなら、長年夢を抱いていた、建主にとっては、この海が、庭であり、リビングであり、きつても切れない生活の一部となっている。

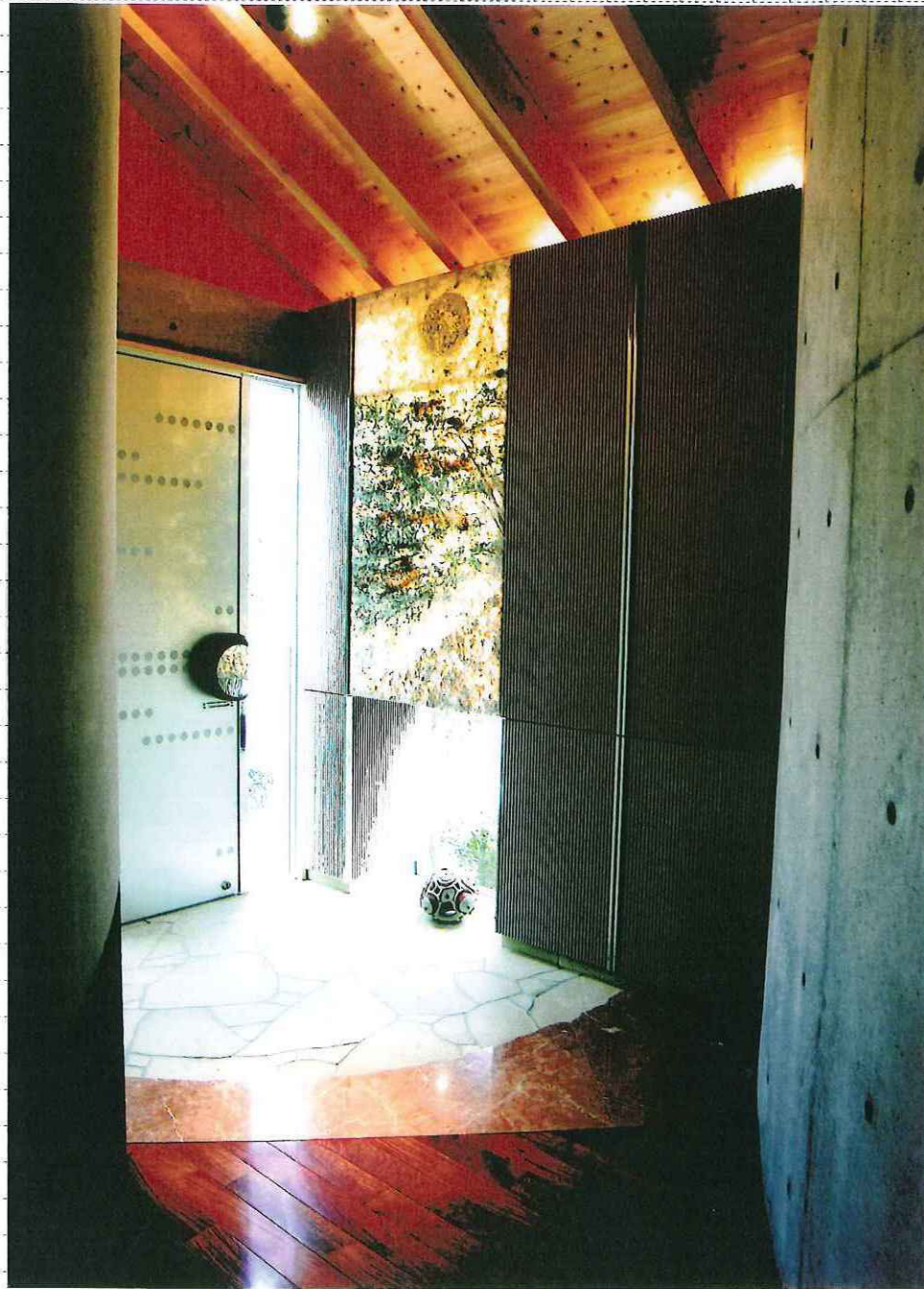
(人が集まる暖かい家)をコンセプトに、人と人との交流が、瀬戸内海の自然環境の中、暖かい住空間を育てていく、RC構造でありながら自然環境の中に木造空間としての暖かい表現を思い天井を高くとり(五メートル)、登り梁、野地板を表現することで、開放的なイメージ空間作り、

冬は環境上熱効率を考え、床暖房の必要性が、暮らしに豊かさと機能を与えています、夏は目の前のプライベートビーチで仲間と海水浴やカヌーをしてテラスで食事を楽しみ、リビングからの眺めは、登り梁が海を指し、風景を切り取り、逆光を押さえ、景色がより鮮やかに、感じとる、朝の海からの日の出、夜の月からの光と影、障子越しの光それらが空間のなかに、陰影を出し、人の意識を海に、開放させることで、感覚が解放され、日本の四季の流れを肌で感じる

緑、雨、風、光が、空間にとって重要な要素であり、建物中央に設けた風と光の通道でもある吹き抜け部分(階段スペースとトップライト)が、全体に、光と風を行き渡らせ、空間全体に、やわらかく拡散される、海からの反射される光線が空間に変化をあたえ、雨の日には、軒先にあえて樋を設けてないため、水のカーテンとなって情緒を感じさせ、天からの恵みが、大地へ帰っていきます、緑が、緩やかに浸透してくる、数年の後には、周辺の緑は、建物のもつ幾何学的、存在性を、埋め尽くし、自然と一体化していくことでしょう。



作品番号017-2



作品番号017-3

